

在来水生生物保全池，身近な生き物を守れ！

072

生産環境科学課程 助教 楠田 哲士

e-mail: kusuda@gifu-u.ac.jp

身近にいたはずのニホンイシガメは、全国的に減少し、外来のミシシippアカミミガメ(商品名ミドリガメ)が全国で大增殖しています。

岐阜県は豊かな自然に恵まれ、市内にもまだまだ多くの自然環境が残されています。構内にも、多くの在来生物が生息していますが、環境の悪化や外来種の生息拡大は他地域と同様に深刻です。絶滅の危機に瀕している生物も少なくありません。

構内の一画に今年完成した小さな人工池(約200m²)は、市内の希少な在来水生生物(主に、ニホンイシガメとカスミサンショウウオ)の保護増殖と調査研究、さらには普及啓発を行うことを目的とした場所です。

在来水生生物保全池

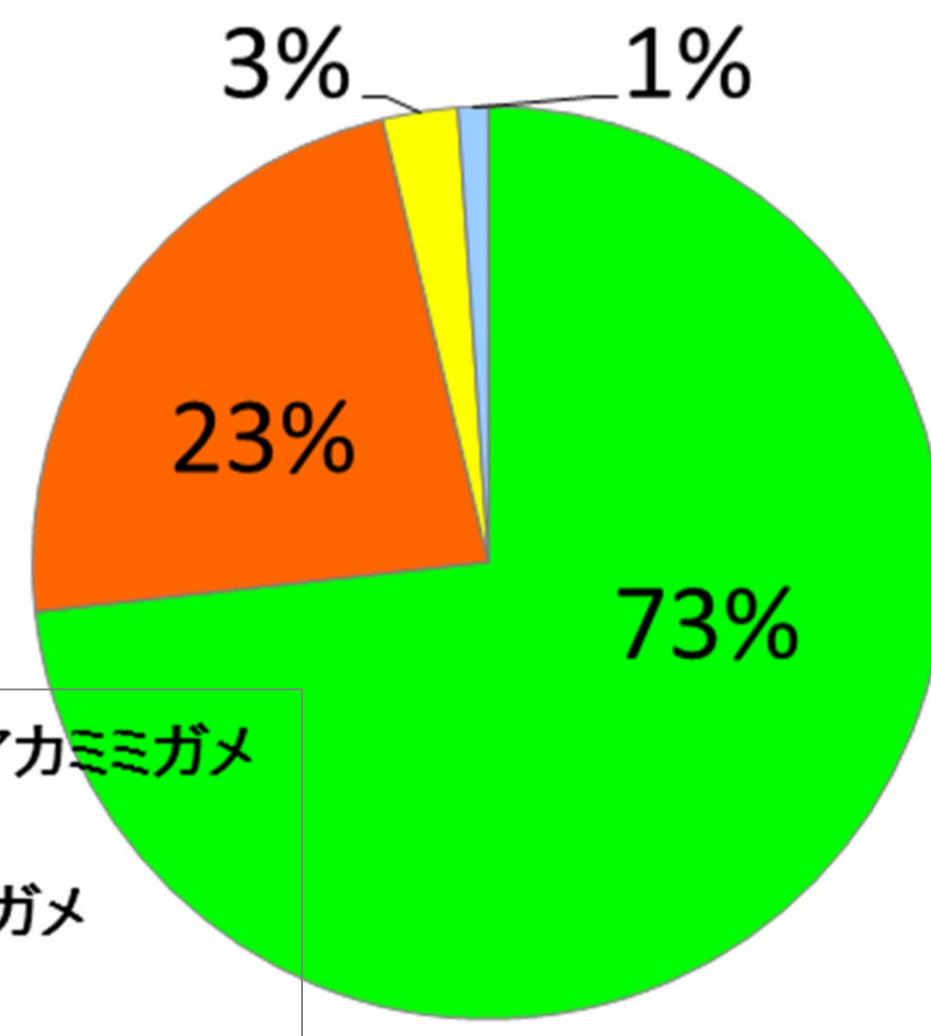
検索



調査期間： 2010年8月27日～2011年7月27日
調査地： 岐阜大学構内， 構内と接続する村山川と新堀川

1. 岐阜大学地区のカメ類の生息状況

2010年夏から始めた岐阜大学地区でのカメ捕獲調査で、大学周辺は要注意外来生物のミシシippアカミミガメに占拠され、在来のニホンイシガメは絶滅寸前だということがわかってきました。ミシシippアカミミガメは、構内でも産卵・孵化が確認されています。



ニホンイシガメ	クサガメ
015	129
スッポン	ミシシippアカミミガメ
006	411

2. 在来水生生物保全池とは

2010年、まずは岐阜大学地区で危機的な状況にあるニホンイシガメの保全活動を開始しました。一方で、2006年から岐阜高校が、絶滅危惧種の岐阜市のカスミサンショウウオ(市条例指定貴重野生動物種)などの保全活動に本格的に取り組んでいます。このように、身近にいたはずのニホンイシガメやカスミサンショウウオが危機的な状況にあることが分かり、両種の保全・研究・教育する場を作りたいと考え、工事を進めてきました。この保全池は3つのゾーンからなっています。

この保全池での活動は、岐阜高校や岐阜県世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ、岐阜市、愛知学泉大学などのご協力とご指導をいただきながら進めています。活動の概要や保全池の様子は、随時、応用動物科学コースのHPで紹介しています。



3. 在来水生生物保全池ニュース

